

事業№	事業名	新湊漁業研究会青年部補助金				担当部署	部名	産業経済部
		(海面漁業振興費)					課名	農林水産課
132							電話	82 - 1959
事業期間		開始年度	平成 8 年度	終了年度	-	予算科目	会計	一般会計
総合計画	施策の大綱	第 3 部 元気で活気あふれるまち					款	農林水産業費
	政策名(章)	第 4 章 豊かな水産資源を生かしたまちづくり					項	水産業費
	施策名(節)	第 1 節 活気あふれる漁業の振興					目	水産業振興費
	実施計画掲載	無	頁	個別計画				
根拠法令・要綱等								

事業目的	対象	交付先	新湊漁業協同組合青年部					
	意図	補助目的	地域漁業の振興育成					
事業内容	手段	主な活動	新湊漁業協同組合青年部が行なう地域における活動、漁業技術研究の導入及び後継者育成に対し補助金を交付する。 (新湊漁協青年部規約:事業) 1. 漁業技術の研究 2. 漁場環境保全に係わる活動 3. 後継者育成及び従事者確保のための活動 4. 他団体等との交流、情報の収集、交換活動 5. 魚価対策のPR活動					

補助金	類型区分	団体運営費補助		○	事業費補助	施設等整備費補助		政策的補助
		格差是正補助			利子補給	その他()		
	補助内容	補助区分		内容(基準単価・補助率等)				上限額
		○	定額補助					243 千円
			定率補助					
		その他					上限額は、補助区分が「定額補助」、「その他」のみ記載	

施設管理運営	施設名				管理形態			
	構造・階数				指定管理者名			
	建築年度		改修年度		類似施設状況			
	耐震の有無		延床面積		民間施設状況			
	設備・規模							

施設等整備	総事業費		財源内訳(千円)	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	整備内容	平成21年度	平成22年度		平成23年度			

その他	特記事項等	平成7年9月29日 設立(新湊漁協青年部規約) 「会員相互の連絡を密にし、協同組合運動の実践活動を通じて、積極的に新湊漁業協同組合に協力するとともに、漁村の中核としての教養を高め会員の親睦を図り、新湊地区の漁業発展に寄与することを目的とする。」
-----	-------	---

事業No	事業名	新湊漁業研究会青年部補助金 (海面漁業振興費)	担当部署	部名	産業経済部
132				課名	農林水産課
				電話	82 - 1959

指標名	単位	H21年度 実績	H22年度			H23年度 目標		
			目標	実績	達成率			
成果指標	利用者数 設定できる場合 (新湊漁業協同組合青年部員)	人	70	80	82	102.5	82	

事業費・人件費	事業費		平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
	事業コスト	直接事業費	243 千円	243 千円	0.0	243 千円
		(補助金交付件数)	(1 件)	(1 件)	0.0	(1 件)
		人件費	204 千円	204 千円	0.0	204 千円
		退職手当引当金相当額	30 千円	30 千円	0.0	30 千円
	財源内訳	事業コスト計	477 千円	477 千円	0.0	477 千円
		国県支出金	千円	千円		千円
		その他	千円	千円		千円
		一般財源	477 千円	477 千円	0.0	477 千円
	当該事務従事職員数		0.03 人	0.03 人	0.0	0.03 人
	利用者1人当たりコスト		6.81 千円	5.82 千円	▲ 14.6	
	うち一般財源ベース分		6.81 千円	5.82 千円	▲ 14.6	

評価項目	点数	説明
妥当性	4	地域における活動、漁業技術研究の導入及び後継者育成を図る。
有効性	4	地域漁業の振興と育成を行なう。
効率性	3	漁業技術の研究導入及び後継者育成に効果が期待される。

評価結果 (1次)	A	現行どおり補助することが適当	評価結果 (2次)	
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)			評価委員会のコメント	
全国的に漁業従事者の高齢化及び減少が進む中、新湊漁業協同組合青年部の部員は、増加傾向にある。このことからみても、地域漁業の振興と後継者育成に効果があったといえる。				

事業No	事業名	魚食普及推進事業補助金 (海面漁業振興費)				担当部署	部名	産業経済部
134							課名	農林水産課
							電話	82 - 1959
事業期間	開始年度	平成 17 年度	終了年度	平成 24 年度		予算科目	会計	一般会計
総合計画	施策の大綱	第 3 部 元気で活気あふれるまち					款	農林水産業費
	政策名(章)	第 4 章 豊かな水産資源を生かしたまちづくり					項	水産業費
	施策名(節)	第 1 節 活気あふれる漁業の振興					目	水産業振興費
	実施計画掲載	無	頁	個別計画				
根拠法令・要綱等								

事業目的	交付先	富山県おさかな普及協会						
意図	補助目的	富山県の水産業のイメージアップと本県産水産物の消費拡大を図るため、富山湾で獲れる魚や水産業の仕組み及び環境への取り組みについて理解を深める。						
事業内容	手段	主な活動 「ふるさと富山湾～ふしぎの海のおさかな読本～」を作成し、富山県内小学校185校の5年生及び指導教諭及び関係機関に10,200部を配布する。						

補助金	類型区分	団体運営費補助		○	事業費補助	施設等整備費補助		政策的補助
		格差是正補助			利子補給	その他()		
	補助内容	補助区分		内容(基準単価・補助率等)				上限額
		○	定額補助	漁港施設(港種等)及び水揚げ量等によるもの				130 千円
		定率補助						
	その他						上限額は、補助区分が「定額補助」、「その他」のみ記載	

施設管理運営	施設名				管理形態			
	構造・階数				指定管理者名			
	建築年度				指定管理期間			
	耐震の有無				類似施設状況			
					延床面積			
	設備・規模							

施設等整備	総事業費			財源内訳(千円)	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	整備内容	平成21年度		平成22年度		平成23年度			

その他	特記事項等							
-----	-------	--	--	--	--	--	--	--

事業No	事業名	魚食普及推進事業補助金 (海面漁業振興費)		担当部署	部名	産業経済部
134				課名	農林水産課	
				電話	82 - 1959	

指標名	単位	H21年度実績	H22年度			H23年度目標		
			目標	実績	達成率			
利用者数 設定できる場合 (市内小学校5年生の人数)	人	991	931	925	99.4	951		

事業費		平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
事業コスト	直接事業費	255 千円	200 千円	▲ 21.6	130 千円
	(補助金交付件数)	(1 件)	(1 件)	0.0	(1 件)
	人件費	204 千円	204 千円	0.0	204 千円
	退職手当引当金相当額	30 千円	30 千円	0.0	30 千円
事業コスト計		489 千円	434 千円	▲ 11.2	364 千円
財源内訳	国県支出金	千円	千円		千円
	その他	千円	千円		千円
	一般財源	489 千円	434 千円	▲ 11.2	364 千円
当該事務従事職員数		0.03 人	0.03 人	0.0	0.03 人
利用者1人当たりコスト		0.49 千円	0.47 千円	▲ 4.9	
うち一般財源ベース分		0.49 千円	0.47 千円	▲ 4.9	

評価項目	点数	説明
妥当性	1	富山県の水産業のイメージアップ
有効性	1	富山県産の水産物の消費拡大(富山県内の小学校5年生に、富山湾で獲れる魚や水産業の仕組み及び環境への取り組みについて理解する。)
効率性	3	富山湾で獲れる魚等について理解してもらうために、「ふるさと富山湾～ふしぎの海のおさかな読本～」を作成し、県内小学校に配付する。

評価結果 (1次)	C	補助基準の見直しが必要	評価結果 (2次)	
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)			評価委員会のコメント	
平成24年度予算から廃止				

事業No	事業名	漁業近代化資金利子補給補助金				担当部署	部名	産業経済部
		(海面漁業振興費)					課名	農林水産課
135							電話	82 - 1959
事業期間		開始年度	平成 17 年度	終了年度	-	予算科目	会計	一般会計
総合計画	施策の大綱	第 3 部 元気で活気あふれるまち					款	農林水産業費
	政策名(章)	第 4 章 豊かな水産資源を生かしたまちづくり					項	水産業費
	施策名(節)	第 1 節 活気あふれる漁業の振興					目	水産業振興費
	実施計画掲載	無	頁	個別計画				
根拠法令・要綱等		射水市漁業近代化資金利子補給金交付要綱						

事業目的	対象	交付先	市内に住所又は漁船の主たる根拠地を有する者で漁業を営む者「漁業者」	
	意図	補助目的	漁業経営の安定化を図るため	
事業内容	手段	主な活動	漁業近代化資金融通法に規定する漁業近代化資金に係る利子補給金を交付する	

補助金	類型区分	団体運営費補助		事業費補助		施設等整備費補助		○	政策的補助
		格差是正補助		○	利子補給	その他()			
	補助内容	補助区分	内容(基準単価・補助率等)					上限額	
		定額補助	利子補給率は1.5パーセント以内とし、利子補給期間は融資期間から資金を借り受けた日から1年間とする。ただし、災害等に起因する被害の復旧のための借入金の利子補給期間は、その都度定める。					千円	
		○ 定率補助						上限額は、補助区分が「定額補助」、「その他」のみ記載	
	その他								

施設管理運営	施設名				管理形態			
	構造・階数				指定管理者名			
	建築年度		改修年度		指定管理期間			
	耐震の有無		延床面積		類似施設状況			
	設備・規模							

施設等整備	総事業費	財源内訳(千円)	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	整備内容	平成21年度	平成22年度			平成23年度	

その他	特記事項等	災害資金等の利息にも活用されている。
-----	-------	--------------------

事業No	事業名	漁業近代化資金利子補給補助金 (海面漁業振興費)	担当部署	部名	産業経済部
135				課名	農林水産課
				電話	82 - 1959

成果指標	指標名	単位	H21年度実績	H22年度			H23年度目標		
				目標	実績	達成率			
成果指標	利用者数 設定できる場合 (受給者数)	人	4	3	3	100.0	4		

事業費・人件費	事業費		平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
	事業コスト	直接事業費	238 千円	148 千円	▲ 37.8	184 千円
		(補助金交付件数)	(4 件)	(3 件)	▲ 25.0	(4 件)
		人件費	204 千円	204 千円	0.0	204 千円
		退職手当引当金相当額	30 千円	30 千円	0.0	30 千円
	財源内訳	事業コスト計	472 千円	382 千円	▲ 19.1	418 千円
		国県支出金	千円	千円		千円
		その他	千円	千円		千円
		一般財源	472 千円	382 千円	▲ 19.1	418 千円
		当該事務従事職員数	0.03 人	0.03 人	0.0	0.03 人
		利用者1人当たりコスト	118.00 千円	127.33 千円	7.9	
		うち一般財源ベース分	118.00 千円	127.33 千円	7.9	

評価項目	点数	説明
妥当性	4	漁業経営者の負担を軽減することにより、漁業経営の安定を図る。
有効性	4	漁業経営者が資金調達において、利子補給を受けることができることで、当市で独立して漁師をやるメリットがあり、安心して安全に漁を営むことができる。
効率性	4	補助金のすべてが利子補給の一部となる。

評価結果 (1次)	A	現行どおり補助することが適当	評価結果 (2次)	
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)			評価委員会のコメント	
漁業経営の安定化を図るために必要な補助事業である。				

事業No	事業名	近畿大学水産研究所富山実験場研究支援補助金				担当部署	部名	産業経済部
		(海面漁業振興費)					課名	農林水産課
136							電話	82 - 1959
事業期間		開始年度	平成 14 年度	終了年度	-	予算科目	会計	一般会計
総合計画	施策の大綱	第 3 部 元気で活気あふれるまち					款	農林水産業費
	政策名(章)	第 4 章 豊かな水産資源を生かしたまちづくり					項	水産業費
	施策名(節)	第 1 節 活気あふれる漁業の振興					目	水産業振興費
	実施計画掲載	無	頁	個別計画				
根拠法令・要綱等								

事業目的	対象	交付先	近畿大学水産研究所富山実験場					
	意図	補助目的	水産養殖産業の振興					
事業内容	手段	主な活動	海洋の半深層水を活用したアワビ陸上養殖技術の開発 ・飼育水槽における収容密度を高める技術開発 ・飼育水の濁りによる親貝の成熟状態の悪化防止 ・県内外への試験販売と昆布の製品化					

補助金	類型区分	団体運営費補助		事業費補助		施設等整備費補助		政策的補助		
		格差是正補助		利子補給		○ その他 (研究費補助)				
	補助内容	補助区分		内容 (基準単価・補助率等)				上限額		
		○ 定額補助	人件費を除く経費相当分及び備品等				1,500 千円		上限額は、補助区分が「定額補助」、「その他」のみ記載	
		定率補助								
その他										

施設管理運営	施設名					管理形態				
	構造・階数					指定管理者名				
	建築年度			改修年度			類似施設状況			
	耐震の有無			延床面積			民間施設状況			
	設備・規模									

施設等整備	総事業費	財源内訳 (千円)		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	整備内容	平成21年度		平成22年度		平成23年度		

その他	特記事項等							
-----	-------	--	--	--	--	--	--	--

事業№	事業名	近畿大学水産研究所富山実験場研究支援補助金 (海面漁業振興費)	担当部署	部名	産業経済部
136				課名	農林水産課
				電話	82 - 1959

成果指標	指標名	単位	H21年度実績	H22年度			H23年度目標		
				目標	実績	達成率			
成果指標	利用者数 設定できる場合 ()	人							
	保有貝数	ヶ	10,000	10,000	10,000	100.0	20,000		

事業費・人件費	事業費		平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
	事業コスト	直接事業費	1,500 千円	1,500 千円	0.0	1,500 千円
		(補助金交付件数)	(1 件)	(1 件)	0.0	(1 件)
		人件費	204 千円	204 千円	0.0	204 千円
		退職手当引当金相当額	30 千円	30 千円	0.0	30 千円
	財源内訳	事業コスト計	1,734 千円	1,734 千円	0.0	1,734 千円
		国県支出金	千円	千円		千円
		その他	千円	千円		千円
		一般財源	1,734 千円	1,734 千円	0.0	1,734 千円
		当該事務従事職員数	0.03 人	0.03 人	0.0	0.03 人
		利用者1人当たりコスト	-	-		
		うち一般財源ベース分	-	-		

評価項目	点数	説明
妥当性	4	本事業は、養殖漁業への貢献が見込まれる。
有効性	4	本事業は、養殖販売の販路拡大に効果が期待される。
効率性	4	本事業は、効率的な養殖システムの開発に効果が期待される。

評価結果 (1次)	A	現行どおり補助することが適当	評価結果 (2次)	
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)			評価委員会のコメント	
本事業は、生産される養殖エゾアワビに付加価値をつけ、射水・近大・堀岡ブランドの確立を目指している。				

事業№	事業名	近畿大学堀岡トラフグPR事業補助金				担当部署	部名	産業経済部
		(海面漁業振興費)					課名	農林水産課
137							電話	82 - 1959
事業期間		開始年度	平成 20 年度	終了年度	-	予算科目	会計	一般会計
総合計画	施策の大綱	第 3 部 元気で活気あふれるまち					款	農林水産業費
	政策名(章)	第 4 章 豊かな水産資源を生かしたまちづくり					項	水産業費
	施策名(節)	第 1 節 活気あふれる漁業の振興					目	水産業振興費
	実施計画掲載	有	23 頁	個別計画				
根拠法令・要綱等								

事業目的	対象	交付先	堀岡養殖漁業協同組合					
	意図	補助目的	射水の新ブランドの確立と養殖産業の振興					
事業内容	手段	主な活動	1. 射水市内のイベント参加し、トラフグ鍋の無料配布 2. 市民参加の試食会、新商品の企画開発 3. 県内外へのPRチラシ作成					

補助金	類型区分	団体運営費補助		事業費補助		施設等整備費補助		政策的補助		
		格差是正補助		利子補給		○ その他 (新ブランドのPR支援)				
	補助内容	補助区分		内容(基準単価・補助率等)				上限額		
		○ 定額補助	県内外へのPR活動に必要な経費相当分				300 千円		上限額は、補助区分が「定額補助」、「その他」のみ記載	
		定率補助								
その他										

施設管理運営	施設名					管理形態			
	構造・階数					指定管理者名			
	建築年度			改修年度			類似施設状況		
	耐震の有無			延床面積			民間施設状況		
	設備・規模								

施設等整備	総事業費	財源内訳(千円)		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	整備内容	平成21年度		平成22年度		平成23年度		

その他	特記事項等	農業産業まつりに参加して、近大堀岡トラフグ鍋を無料で提供している。(約200人前)
-----	-------	---

事業№	事業名	近畿大学堀岡トラフグPR事業補助金 (海面漁業振興費)	担当部署	部名	産業経済部
137				課名	農林水産課
				電話	82 - 1959

成果指標	指標名	単位	H21年度実績	H22年度			H23年度目標		
				目標	実績	達成率			
	利用者数 設定できる場合 ()	人							
	近大堀岡トラフグ販売尾数 (H21小ぶりのトラフグを出荷したため)	尾	8,420	4,000	3,659	91.5	4,000		

事業費・人件費	事業費		平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
	事業コスト	直接事業費	300 千円	300 千円	0.0	300 千円
		(補助金交付件数)	(1 件)	(1 件)	0.0	(1 件)
		人件費	204 千円	204 千円	0.0	204 千円
		退職手当引当金相当額	30 千円	30 千円	0.0	30 千円
	財源内訳	事業コスト計	534 千円	534 千円	0.0	534 千円
		国県支出金	千円	千円		千円
		その他	千円	千円		千円
		一般財源	534 千円	534 千円	0.0	534 千円
		当該事務従事職員数	0.03 人	0.03 人	0.0	0.03 人
	利用者1人当たりコスト		-	-		
	うち一般財源ベース分		-	-		

評価項目	点数	説明
妥当性	4	射水の新ブランドとして県内外にPRすることにより、養殖産業の振興を図る。
有効性	4	近大堀岡トラフグPRを行なうことにより、持続性のある新たな産業と雇用の創出を図る。
効率性	4	水産資源の需要拡大と安定供給を図る。

評価結果 (1次)	A	現行どおり補助することが適当	評価結果 (2次)	
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)			評価委員会のコメント	
特産水産物の販路拡大、及び射水新ブランドの確立に向けて必要な補助事業である。				

事業No	事業名	漁港及び漁港内公園の維持管理費				担当部署	部名	産業経済部
		(新湊漁港管理費)					課名	農林水産課
138							電話	82 - 1959
事業期間		開始年度	平成 9 年度	終了年度	-	予算科目	会計	一般会計
総合計画	施策の大綱	第 3 部 元気で活気あふれるまち					款	農林水産業費
	政策名(章)	第 4 章 豊かな水産資源を生かしたまちづくり					項	水産業費
	施策名(節)	第 1 節 活気あふれる漁業の振興					目	水産業振興費
	実施計画掲載	無	頁	個別計画				
根拠法令・要綱等		1. 新湊漁港内公園の清掃業務等実施規程、2. 新湊漁港内公園の清掃業務委託確認書						

事業目的	対象	誰を・何を	新湊漁港内公園及び施設を利用する地域住民等
	意図	どのような状態に	市民の福祉向上を図る
事業内容	手段	どのような方法で	1. 新湊漁港内公園の清掃業務等(再委託) 2. 新湊漁港施設の清掃及び同施設利用監視並びに漁港内道路状況情報収集業務(再委託)

補助金	類型区分			
	補助内容	補助区分	内容(基準単価・補助率等)	上限額

施設管理運営	施設名			管理形態	
				指定管理者名	
	構造・階数			指定管理期間	
	建築年度	改修年度		類似施設状況	
	耐震の有無	延床面積		民間施設状況	
	設備・規模				

施設等整備	総事業費		財源内訳(千円)	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	整備内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度				

その他	特記事項等	
-----	-------	--

事業No	事業名	漁港及び漁港内公園の維持管理費 (新湊漁港管理費)	担当部署	部名	産業経済部
138				課名	農林水産課
				電話	82 - 1959

	指標名	単位	H21年度 実績	H22年度			H23年度 目標	H 29 年度	
				目標	実績	達成率		最終目標	達成率
成果指標	利用者数 設定できる場合 ()	人							
	トイレ使用実績 (下水道使用料)	m³	634	665	548	82.4	575	605	
活動指標	業務委託件数 (再委託分)	件	12	12	11	91.7	11		

	事業費		平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
	事業費	事業コスト				
事業費・人件費	直接事業費		12,533 千円	13,174 千円	5.1	13,848 千円
	人件費		340 千円	340 千円	0.0	340 千円
	退職手当引当金相当額		50 千円	50 千円	0.0	50 千円
	事業コスト計		12,923 千円	13,564 千円	5.0	14,238 千円
	国県支出金		7,268 千円	7,243 千円	▲ 0.3	7,242 千円
	その他		千円	千円		千円
	一般財源		5,655 千円	6,321 千円	11.8	6,996 千円
	当該事務従事職員数		0.05 人	0.05 人	0.0	0.05 人
	利用者1人当たりコスト		-	-		
	うち一般財源ベース分		-	-		

評価項目	点数	説明
必要性	4	市民の憩いの場として定着している。
有効性	4	利用者が施設を快適で安全に利用できるように努める。
達成度	4	市民の福祉向上につながる施設である。
効率性	4	地域住民等に幅広く利用されている。

評価結果 (1次)	A	現行(計画)どおり事業を進めることが適当	評価結果 (2次)	
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)			評価委員会のコメント	
立山連峰・富山湾の展望、海釣り、地域住民のウォーキング等の場として、様々な観点から有効活用されている。				